

中学校名	市	主な入試の変更点と予測
中大附属横浜	横浜市	入試の変更点はなし。模試では、男子の希望者が2015年並み、女子は2月1日の1回が2015年並み、2日午後の2回は減っている。1回の不合格者は2回に再挑戦すると思われるので、入りやすくなることは考えにくい。1・2回とも2016年入試並みの難度だと思われる。
日本大学	横浜市	2016年春に、グローバルリーダーズコースを新設して2コース制になった。2016年の模試から2コース制に対応している。模試では、2コース合計だと男女とも早い日程は概ね2015年並みの希望者数、2月2日午後と5日は少し減っている。早い日程の不合格者が遅い日程に再挑戦することが見込まれるので、結局あまり入りやすくなることはなさそう。模試でも、グローバルリーダーズコースはN.スタンダードコースよりもやや上の難度。
神奈川大附属	横浜市	模試では、男女とも同校を他校の併願で考える希望者が減っているよう。安全志向で同校の志望順位を上げる受験生が増えるかもしれないが、2月2日のAは2015年並みの難度、3日のB、5日のCはやや入りやすくなる可能性がある。ただ、用心するに越したことはないので、甘く見ないようにしたい。
森村学園	横浜市	入試の変更点はなし。模試では男女とも希望者が増加傾向。他校併願前提で考えている受験生は、2015年同時期よりも少し下の学力水準の受験生が、特に男子で多いよう。このまま入試を迎えると各回ともやや難化、他校併願前提の受験生の不合格が増えるかもしれない。しっかり準備して入試に臨みたいところ。
桐蔭学園	横浜市	2月4日の4次を算数基礎・思考力問題・面接のアクティブラーニング入試に変更。模試では、男子が増えている回次もあるが、女子の方が増えている回次が多く、やはりグローバル対応や21世紀型教育は女子受験生の注目度が高くなっている。募集規模が大きいこともあって、実際の受験生が増えても難化することはなく、男女共に各回各コースとも2016年入試並みの難度だと思われる。
横浜翠陵	横浜市	2月1日午後に適性検査型入試を新設。各回とも2016年入試並みの難度になるとと思われる。
公文国際	横浜市	入試の変更点はなし。模試では、男子の希望者が少し減っていて、その分女子は増えている。留学生が多く、グローバル対応を以前から行ってきたので、女子受験生の注目度が上がっているものと思われる。希望者数は男女を合計するとあまり変わらず、難度面では1日、3日とも2016年と同水準になるとと思われる。
山手学院	横浜市	入試の変更点はなし。模試によって希望者の動向に違いが見られる。これは、併願前提の受験生の動きが流動的なためだと思われる。難度を予測するのが難しい状況だが、各回とも、仮に応募者が増えて難化したとしても小幅だと思われる。
関東学院	横浜市	2月3日の入試を2日に前倒しする。模試では、女子の希望者は回次によって増減が見られる。男子は増加している。今後女子も、流動的な併願前提の受験生の動きが固まってくると、増加傾向がはっきりしてくるかもしれない。各回ともやや難化する可能性がある。特に2月2日に動く1期Cと6日の2期は注意した方がよさそう。
関東学院六浦	横浜市	各回とも難度は2016年入試並みになりそう。
横浜隼人	横浜市	各回とも難度は2016年入試並みになりそう。
鶴見大附属	横浜市	2月2日に適性検査型入試を新設。進学コースの入試の2科を基礎問題にする。各回とも難度は2016年入試並みになりそう。
横浜創英	横浜市	2月2日午後の入試を3日午前に移動する。各回とも難度は2016年入試並みになりそう。
橘学苑	横浜市	各回とも難度は2016年入試並みになりそう。
横浜サイエンスフロンティア(公立)	横浜市	横浜サイエンスフロンティア高校に附属中学が開校。大きな話題となっている。定員は80名だが、説明会には多数の受験生、保護者が参加し、人気が上がっている。最終的にどのくらいの難度になるか、現段階ではまだ何とも言えないが、模試では難関私立中との併願を考えている受験生も少なくないことから、少なくとも市立南と同じくらいの水準だと考えた方がよさそう。
市立南(公立中高一貫校)	横浜市	横浜サイエンスフロンティア開校の余波で、希望者が少し減っているが、もともと高倍率なので入りやすくなることはなさそう。
横浜国大横浜(国立)	横浜市	入試の変更点はなし。サイエンスフロンティア開校の影響を受けて、模試では男女とも希望者が減っている。このまま推移すると少し入りやすくなるかもしれない。
法政第二	川崎市	入試の変更点はなし。男女とも人気は上がっていて、特に比較的学力上位の女子の人気が目立つ。模試では、中堅の学力層の受験生には目立った動きはありませんが、上位層では男女、2月2日の1回、4日の2回とも希望者が増加傾向で、特に女子の勢いが強い。男子はやや難化するかもしれない。女子は、このまま入試を迎えたとかなりの高倍率になる可能性もあり、男子よりも難度が上がるかもしれない。注意が必要。
桐光学園	川崎市	2016年に新設した英語有資格者入試を2月4日に動かして、他の分野も合わせた得意分野の成果中心の入試に衣替えする。こうした入試を行うと、特に男子の学力上位層は難化するようで、模試では男子の上位層の希望者が減っている。女子はむしろこうした入試を歓迎していて、上位の学力層、中堅の学力層とも希望者は増えている。各回とも男子は2016年とあまり変わらない難度だと思われる。女子は少し難化するかもしれない。
大西学園	川崎市	2月4日のC入試を廃止。各回とも2016年入試並みの難度になるとと思われる。
市立川崎(公立中高一貫校)	川崎市	距離は近いが、通学制限からサイエンスフロンティアの影響は受けない。人気にあまり変化は見られず、男女とも2016年入試並みの難度になるとと思われる。
横浜国大鎌倉(国立)	鎌倉市	入試の変更点はなし。模試では希望者がやや減少傾向になっている。やや入りやすくなるかもしれない。
東海大相模	相模原市	模試では男女とも希望者が少し減少傾向。入試が近くなるにつれて希望者が増える可能性はあるが、各回とも少し入りやすくなるかもしれない。
相模原中等(公立中高一貫校)	相模原市	横浜サイエンスフロンティアが開校する影響を受け、高学力層の男子が一部流出しそう。ただ、難化が進んでいることから、少々応募者が減っても入りやすくなることはなさそう。女子も高倍率で、2016年入試並みの難度は維持しそう。

中学校名	区	主な入試の変更点と予測
自修館	伊勢原市	各回とも2016年入試並みの難度になると思われる。
慶應湘南藤沢	藤沢市	トップ校。入試の変更点はなし。模試では、男子の希望者がやや減っているが、女子は2015年並み。もともと高難度で1次合格者に2次試験を課しているため、難度そのものは2016年とあまり変わらないと思われる。
日大藤沢	藤沢市	入試の変更点はなし。模試によって希望者の動向に違いが見られる。これは、併願前提の受験生の動きが流動的なためと思われる。難度を予測するのが難しい状況だが、2回の入試とも、2016年とあまり変わらない難度に落ち着くのではないと思われる。
湘南学園	藤沢市	入試の変更点はなし。模試では男子の希望者がやや減って、その分女子が増えている。男女合計すれば、2015年同時期とあまり大きな違いはなく、各回とも2016年入試並みの難度だと思われる。
横須賀学院	横須賀市	2月2日午後の入試を午前に移行したり、3日午後は2科4科選択から2科に動かすなどの変更がある。模試では、男子の志望順位が高い希望者がやや増えているほかは、各回とも2015年並みの希望者で、難度面は2016年とあまり変わらない入試になりそう。
アレセア湘南	茅ヶ崎市	各回とも難度は2016年入試並みになりそう。
相洋	小田原市	各回とも難度は2016年入試並みになりそう。
平塚中等(公立中高一貫校)	平塚市	模試での希望者に目立った動きはなく、2016年入試並みの難度になりそう。